

第25期日本学術会議
健康・生活科学委員会 高齢者の健康分科会
(第3回)
議事録

1. 日時：令和3年4月26日（水）15：00～17：00
2. 場所：ビデオ会議
3. 出席（敬称略五十音順）：荒井秀典，秋下雅弘，飯島勝矢，伊香賀俊治，太田喜久子，
須田木綿子，住居広士，田高悦子，野口定久，安村誠司，吉野博
欠席 玉腰暁子

4. 議題

1) 前回（第2回）議事録案について

承認された。

2) 今期の活動計画について

<テーマ>

高齢者の健康・生活の視点から新型コロナウイルス感染症対策に求められる学術の役割と発揮（仮）

<計画>

- ・上記のテーマに向けた課題（注：学際的なアプローチが必要になる課題）について、各部会（第1部～3部）、各委員から、順次、話題提供を行い、議論していく。
- ・第1回目の話題提供として、本日（4/26）第2部 2-1（臨床医学系）が担当。

各部会と委員構成 下線：部会長（敬称略）

第1部（社会学系）：須田、野口、住居

第2部2-1（臨床医学系）：荒井、秋下、飯島・・・第1回目話題提供（2021年4月26日）

第2部2-2（健康・生活科学系）：太田、玉腰、安村、田高

第3部（土木工学・建築学系）：伊香賀、吉野

3) 委員長からの提案：手当の関して

今回までは出るが、今年度は発表グループだけに謝金を出すことで宜しいか

- ➡（事務局・畔上様より）2部においては、年に1回分の開催経費を出すことはできる

4) 第25期 健康・生活科学委員会の活動について(報告)

- ▶ 健康・生活科学分野は、人々が環境との関わりにおいてより健康で豊かな生活を送るため、生命・生活の質（Quality of life, 以後、QOL）を高めることとともに、それを担保する健康と安全のための保健医療政策やシステム、マネジメント、教育等を含めて追求する総合的な学問分野といえる。 （2010 日本学術会議 健康・生活科学委員会 報告）
- ▶ <委員会で取り組み課題や活動>
- ▶ ・人々が環境との関わりにおいてより健康で豊かな生活を送るため、QOL の維持・向上

をめざし、健康と安全、安寧や幸福のための健康・生活上の課題について科学的な視点から検討する。

- ▶ ・各分科会を超えて、関連学問分野で総合的に検討する必要がある共通課題について取り組む。

- ▶ **【共通課題】**

- ▶ 健康危機に関連した課題：(仮)健康危機に備え・対応できる人材の育成

- ▶ <今後の取組>

- ▶ ・(仮)健康危機に備え・対応できる人材の育成をメインテーマとした、連続シンポジウムを開催し、それぞれの分科会による特徴的な課題と対応を検討する。それを実施しながら、提言の方向性について検討を進める。

5) 日本学術会議健康・生活科学委員会 第25期 高齢者の健康分科会 中間報告案

- ▶ 「高齢者の健康・生活の視点から新型コロナウイルス感染症対策に求められる老年学術の役割と発揮案」

- ▶ 緒言 幹事会(編纂)

- ▶ 第1章 新型コロナウイルス感染症対策に求められる臨床医学系学術の役割と発揮

- ▶ 荒井秀典・秋下雅弘・飯島勝夫

- ▶ 第2章 新型コロナウイルス感染症対策に求められる健康・生活科学の役割と発揮

- ▶ 安村誠司・太田喜久子・田高悦子・玉腰暁子

- ▶ 第3章 新型コロナウイルス感染症対策に求められる人文・社会科学の役割と発揮

- ▶ 須田木綿子・住居広士・野口定久

- ▶ 第4章 新型コロナウイルス感染症対策に求められる理・工学の役割と発揮

- ▶ 伊香賀俊治・吉野博

- ▶ 第5章 考察 幹事会(編纂)

- ▶ 第6章 結語と提言・報告 (分科会全員)

- ▶ 第7章 資料編 幹事会(編纂)

6) 第2部 2-1 (臨床医学系：飯島勝矢) の話題提供

『COVID-19による少子高齢社会への「負の影響」そして、高齢者の「コロナフレイル」』

(1) 【コロナフレイル】

- ・コロナ禍での自粛生活長期化による生活不活発を基盤とする高齢者のフレイル化
- ・サルコペニア(筋肉減弱)進行などに加え、うつ傾向、人とのつながりの低下(社会交流の断絶)、食生活の乱れ・偏り等にも危惧

(2) 日本老年医学会からの情報リリース状況【新型コロナウイルス対策】

(3) COVID-19による地域在住高齢者へのフレイル化の関連論文

日本老年医学会 HP 近日掲載

(4) コロナ禍で顕在化した及び浮上してきた諸問題

【医療】

- 医療機関 …コロナ診療による経営問題、赤字補填

- 一部の医療機関だけがコロナ対応

【介護】

- 介護サービスの縮小・休業（介護サービス事業者が倒産少なくない）
 - 1) 事業所・施設の経営上の問題
 - 2) 高齢者・家族への直接的影響（心身機能低下、活力低下）
- 高齢者施設やデイサービス施設、および複数の介護サービス事業所にまたがったのクラスター発生

【地域福祉活動】

- 感染による重症化リスクの高い高齢者や障害のある方への配慮
 ☞ どこまで徹底した（過剰な？）自粛を強いるのか
- コロナ禍であっても、“子どもの虐待” や“ひきこもり”、高齢化の進行による“介護離職”や“ダブルケア”といった社会情勢の変化に伴う課題に対応するため、地域福祉活動を止めることはできない。

- (5) コロナ問題によってさらに深刻化する孤立や生活困窮の課題
- (6) With/Post コロナ社会を見据えた地域戦略
 新たな地域像に向けて、どう備える？ どのような政策提言が必要？
- (7) With コロナ・After コロナ社会を見据えて地域社会のためにピンチをチャンスに！

道グループ第2部 2-1（臨床医学系：荒井、秋下）より追加コメント

- ・ワクチン問題を可及的速やかに
 政府は7月一杯で終わりたいと言っているが、かなりずれ込んでいる
 獣医師や薬剤師などにも協力を頂いて、接種を加速するべき
- ・3割近く身体活動が低下、特に独居で社会活動が低い高齢者
 （web調査での限界があるが、フレイルと認知症が増加するであろう。今後の対策が重要介護崩壊にならないように。）
- ・コロナフレイルという負の部分に対して、ICTの有用性もあるであろう。
- ・ワクチン接種、2回目の接種では副反応も出るが、高齢者では副反応は非常に少ないという報告も出てきている。
 自治体間での格差が大きい（準備段階、認識）
 政府が主導で仕組みをもう一回りしっかりと作っていくべきだったかな、とも振り返る
- ・医療控えだけではなく、介護控えの現状もある。
 現在、医療控えは戻ってきている傾向はあるが、まだまだ国民側に「医療機関への偏見」が根強く残っている。

【自由討論】

<考え方>

- ・高齢者だけではなく、「高齢社会」を対象とするのが良い
- ・本分科会活動から何を提言するのか（誰に向けて何を提言するのか）

- ・本分科会からのメッセージ、特に学術的な視点をどうアジェンダを示していくべきなのか
- ・時間軸で考えれば、ワクチン等の問題は急ぐべき案件である
- ・今のコロナ問題への提言というよりも、次にくる新興感染症に対する道標を出すべき

<各論的なコメント>

- ・国民個々にそのダメージをいかに小さくするのか
- ・【仕組み・システムづくり】 医療と介護における従来の体制の在り方の課題が顕在化
 - ➡医療介護連携、介護施設同士における連携の底上げが求められる
- ・高齢者福祉計画と一緒に立てることになっているが、その中にフレイル予防が入っていない。各自治体において、フレイル予防の具体的な施策のなかで、フレイル予防を単に介護予防の中で軽く対応されている現状も問題ではないか。従って、自治体に向けてのメッセージ（提言）も重要であろう。
- ・フレイル化が進むと、死亡率が約2倍： 介護崩壊にもつながるであろう
- ・PCR 陽性であれば、死亡したケースは全てコロナ死とすることになっている（厚労省より）
- ・「健康～生活～科学」という視点で撮られていく必要性
- ・わが国は災害への対応は色々と勉強してきた経緯がある。その上で、コロナ禍で高齢者をどう守るのが課題。 課題の対象者をマッピングしていくことも重要。

<介護における課題>

- ・第8期介護保険事業計画が終わり、単価が若干上がったとされているにも関わらず、コロナが1年経過した現在においても、課題は大きなまま
- ・介護保険事業の中でも縦割り
- ・介護事業所の倒産件数はさほど多くなかったが、A区とB区での比較ではB区だけ倒産していた。(B区は元々脆弱な事業者が多いので、ちょっとしたことで倒産しやすいのではないかと)
- ・介護職員の不足

以上を踏まえ、【論点整理】

- ・コロナフレイルを中心に提言を出していきたい（出していくべき）：
ちなみに、ワクチン問題は喫緊の課題なので、この分科会では扱うレベルではないのでは
- ・提言の相手（対象者）は国民全体をイメージ（メディアも含めて）
社会の分断に関する危惧についてもメッセージを
- ・コロナだけを「健康問題」だけで捉えるのではなく、「生活、生活科学」にもしっかりと焦点を合わせる

7) 今後の予定

2021年度タイムスケジュール（案）

4月：第2部2-1（臨床医学系）話題提供

6月：第1部（社会学系）話題提供

8月：第2部2-2（健康・生活科学系）話題提供

10月：第3部（土木工学・建築学系）話題提供

12月：中間総括
